

## ◆祈りへの備え(沈黙)

## ◆讚美 292「勝利をたたえて」

### ◆祈りへの招き 詩編43編より

司式 神よ、あなたの裁きを望みます。

会衆 わたしに代わって争ってください。

司式 あなたの慈しみを知らぬ民、欺く者

会衆 よこしまな者から救ってください。

司式 あなたはわたしの神、わたしの砦

会衆 なぜ、わたしを見放されたのか。

司式 なぜ、わたしは敵に虐げられ

会衆 嘆きつつ行き来するのか。

司式 あなたの光とまことを遣わしてください。

会衆 彼らはわたしを導き

司式 聖なる山、あなたのいますところに

会衆 わたしを伴ってくれるでしょう。

司式 神の祭壇にわたしは近づき

会衆 わたしの神を喜び祝い

司式 琴を奏でて感謝の歌をうたいます。

会衆 神よ、わたしの神よ。

司式 なぜうなだれるのか、わたしの魂よ

なぜ呻くのか。

会衆 神を待ち望め。

司式 わたしはなお、告白しよう

会衆 「御顔こそ、わたしの救い」と。

一同 わたしの神よ。

## ◆罪の告白の呼びかけ

司式 まったき謙遜と、神の御恵みへの信

頼のうちに、わたしたちの罪を告白

しましょう。

## ◆罪の告白の祈り

司式 聖なる恵み深き神

わたしどもの罪はあまりに重く、

耐えきれません。

あなたさまの憐みを信じて、

わたしどもは、御前に、

自分の真実の姿を差し出します。

一同 [沈黙]

司式 わたしどもは、告白します。

わたしどもは、

キリストのように愛することが

できませんでした。

一同 [沈黙]

司式 わたしどもは、告白します。

わたしどもは、

強欲で、貪欲な者でした。

一同 [沈黙]

司式 わたしどもは、告白します。

わたしどもは、

誘惑を前にして弱い者でした。

一同 [沈黙]

司式 わたしどもは、告白します。

わたしどもは、

この世から挑まれていることを前にして

脆く弱い者でした。

一同 [沈黙]

司式 憐み深い神よ、

わたしどもをお赦してください。

癒してください。

完全なものとしてください。

あなたさまの御子、われらの救い主、

イエス・キリストのゆえに、

御名によって祈ります。

一同 アーメン

## ◆赦しの宣言

司式 友よ、

あなたの罪が破滅をもたらすことは

ありません。

主が、憐れみをもって、

あなたを過ぎ越させ、

あなたを救い、

神ご自身の愛の御手の内へと

解き放ってくださいからです。

## ◆祈り

司式 出エジプトと復活の御神、

あなたは、

わたしたちの心に律法を記すと

約束してくださいました。

わたしたちをいつも助け、

あなたが誠実にわたしたちと共にい

てくださることを、思い起こし、記念さ

せてくださいますように。

あなたの聖霊の力によって、  
わたしたちは、  
キリストの光を見ることができるでしょう。  
御名によって祈ります。

## 一同 アーメン

### ◆聖書朗読

#### マタイによる福音書24章36節~26章16節

24<sup>36</sup>「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。ただ、父だけがご存じである。<sup>37</sup>人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。<sup>38</sup>洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。<sup>39</sup>そして、洪水が襲って来て一人残らずさうまで、何も気がつかなかった。人の子が来る場合も、このようである。<sup>40</sup>そのとき、畑に二人の男がいれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。<sup>41</sup>二人の女が臼をひいていれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。<sup>42</sup>だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。<sup>43</sup>このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒が夜のいつごろやって来るかを知っていたら、目を覚ましていて、みすみす自分の家に押し入らせはしないだろう。<sup>44</sup>だから、あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」

<sup>45</sup>「主人がその家の使用人たちの上に立てて、時間どおり彼らに食事を与えさせることにした忠実で賢い僕は、いったいどれであろうか。<sup>46</sup>主人が帰って来たとき、言われたとおりになっているのを見られる僕は幸いである。<sup>47</sup>はっきり言うておくが、主人は彼に全財産を管理させるにちがいない。<sup>48</sup>しかし、それが悪い僕で、主人は遅いと思い、<sup>49</sup>仲間を殴り始め、酒飲みどもと一緒に食べたり飲んだりしているとす。<sup>50</sup>もしそうなら、その僕の主人は予想しない日、思いがけない時に帰って来て、<sup>51</sup>彼を厳しく罰し、偽善者たちと同じ目に遭わせる。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。」

25<sup>1</sup>「そこで、天の国は次のようにたとえられる。十人のおとめがそれぞれともし火を持

って、花婿を迎えに出て行く。<sup>2</sup>そのうちの五人は愚かで、五人は賢かった。<sup>3</sup>愚かなおとめたちは、ともし火は持っていたが、油の用意をしていなかった。<sup>4</sup>賢いおとめたちは、それぞれのともし火と一緒に、壺に油を入れて持っていた。<sup>5</sup>ところが、花婿の来るのが遅れたので、皆眠気がさして眠り込んでしまった。<sup>6</sup>真夜中に『花婿だ。迎えに出なさい』と叫ぶ声が出た。<sup>7</sup>そこで、おとめたちは皆起きて、それぞれのともし火を整えた。<sup>8</sup>愚かなおとめたちは、賢いおとめたちに言った。『油を分けてください。わたしたちのともし火は消えそうです。』<sup>9</sup>賢いおとめたちは答えた。『分けてあげるほどはありません。それより、店に行って、自分の分を買って来なさい。』<sup>10</sup>愚かなおとめたちが買いに行っている間に、花婿が到着して、用意のできている五人は、花婿と一緒に婚宴の席に入り、戸が閉められた。<sup>11</sup>その後で、ほかのおとめたちも来て、『御主人様、御主人様、開けてください』と言った。<sup>12</sup>しかし主人は、『はっきり言うておく。わたしはお前たちを知らない』と答えた。<sup>13</sup>だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。」

<sup>14</sup>「天の国はまた次のようにたとえられる。ある人が旅行に出かけるとき、僕たちを呼んで、自分の財産を預けた。<sup>15</sup>それぞれの力に応じて、一人には五タラントン、一人には二タラントン、もう一人には一タラントンを預けて旅に出かけた。早速、<sup>16</sup>五タラントン預かった者は出て行き、それで商売をして、ほかに五タラントンをもうけた。<sup>17</sup>同じように、二タラントン預かった者も、ほかに二タラントンをもうけた。<sup>18</sup>しかし、一タラントン預かった者は、出て行って穴を掘り、主人の金を隠しておいた。<sup>19</sup>さて、かなり日がたってから、僕たちの主人が帰って来て、彼らと清算を始めた。<sup>20</sup>まず、五タラントン預かった者が進み出て、ほかの五タラントンを差し出して言った。『御主人様、五タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに五タラントンもうけました。』<sup>21</sup>主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管

理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』<sup>22</sup>次に、ニタラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、ニタラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかにニタラントンもうけました。』<sup>23</sup>主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』<sup>24</sup>ところで、一タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、あなたは蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だと知っていましたので、<sup>25</sup>恐ろしくなり、出かけて行って、あなたのタラントンを地の中に隠しておきました。御覧ください。これがあなたのお金です。』<sup>26</sup>主人は答えた。『怠け者の悪い僕だ。わたしが蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集めることを知っていたのか。<sup>27</sup>それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きで返してもらえたのに。<sup>28</sup>さあ、そのタラントンをこの男から取り上げて、十タラントン持っている者に与えよ。<sup>29</sup>だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。<sup>30</sup>この役に立たない僕を外の暗闇に追い出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。』<sup>31</sup>「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。<sup>32</sup>そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、<sup>33</sup>羊を右に、山羊を左に置く。<sup>34</sup>そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。<sup>35</sup>お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、<sup>36</sup>裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』<sup>37</sup>すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。<sup>38</sup>い

つ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。<sup>39</sup>いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』<sup>40</sup>そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

<sup>41</sup>それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。<sup>42</sup>お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渇いたときに飲ませず、<sup>43</sup>旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のとき、牢にいたときに、訪ねてくれなかったからだ。』<sup>44</sup>すると、彼らも答える。『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渇いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』<sup>45</sup>そこで、王は答える。『はっきり言うておく。この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。』<sup>46</sup>こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。」

<sup>26</sup><sup>1</sup>イエスはこれらの言葉をすべて語り終えると、弟子たちに言われた。<sup>2</sup>「あなたがたも知っているとおり、二日後は過越祭である。人の子は、十字架につけられるために引き渡される。」<sup>3</sup>そのころ、祭司長たちや民の長老たちは、カイアファという大祭司の屋敷に集まり、<sup>4</sup>計略を用いてイエスを捕らえ、殺そうと相談した。<sup>5</sup>しかし彼らは、「民衆の中に騒ぎが起こるといけないから、祭りの間はやめておこう」と言っていた。

<sup>6</sup>さて、イエスがベタニアで重い皮膚病の人シモンの家におられたとき、<sup>7</sup>一人の女が、極めて高価な香油の入った石膏の壺を持って近寄り、食事の席に着いておられるイエスの頭に香油を注ぎかけた。<sup>8</sup>弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。「なぜ、こんな無駄遣いをするのか。<sup>9</sup>高く売って、貧しい人々に施すことができたのに。」<sup>10</sup>イエスはこれを知って言われた。「なぜ、この人を困らせ

るのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。  
11 貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるが、わたしはいつも一緒にいるわけではない。12 この人はわたしの体に香油を注いで、わたしを葬る準備をしてくれた。13 はっきり言うておく。世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」

14 そのとき、十二人の一人で、イスカリオテのユダという者が、祭司長たちのところへ行き、15 「あの男をあなたたちに引き渡せば、幾らくれますか」と言った。そこで、彼らは銀貨三十枚を支払うことにした。16 そのときから、ユダはイエスを引き渡そうと、良い機会をねらっていた。

### ◆黙想

#### ◆とりなしの祈り

司式 主よ、  
わたしどもは、あなたさまを愛します。  
あなたさまが、わたしたちの叫ぶ声  
をお聞きくださったからです。

会衆 それゆえに、わたしどもは、  
命ある限り、  
あなたさまを呼び求めましょう。

司式 あなたさまがわたしどもの先祖を  
奴隷の生活から解放し、  
満ち足りた約束の地へと  
お導きくださったように、

会衆 囚われたり、抑圧されている者を  
すべて自由にし、  
豊かな人生の場へと  
お連れくださいますように。

司式 あなたさまが  
過越の小羊の血によって  
ご自分の民を  
死から救い出してくださいように、

会衆 わたしどもを、  
われらの過ぎ越しである  
イエス・キリストを通して、  
罪と死とから贖い出してください。

司式 イエス・キリスト、  
われらの救い主である主が、

ご自分の弟子たちの足を洗うために  
腰を曲げて身を低くされたように、  
会衆 わたしどもに、キリストと同じ  
思いやりと謙遜をもって  
互いに愛し合い、仕え合うことを、  
お教えてください。

司式 主なるキリストが、わたしどもに、  
恵みの祝宴であるご自身の御体と  
御血をお渡しくださったように、

会衆 わたしどもが、  
飢えているすべての人と、  
あなたさまから受けた賜物を  
分かち合えるよう、お助けください。

司式 主よ、わたしどもは、  
あなたさまを愛します。  
あなたさまがわたしどもの叫び声  
をお聞きくださったからです。

会衆 それゆえに、わたしどもは、  
命ある限り、  
あなたさまを呼び求めましょう。  
イエス・キリスト、  
われらの救い主を通して、

一同 アーメン。

### ◆派遣

司式 イスラエルを奴隷の生活から自由へ  
と導きだしてくださった神と、  
わたしたちを死から命へと導きだし  
てくださったキリストと、  
わたしたちを恐れから大胆さへと導  
きだしてくださった聖霊とが、  
あなたがたのもとに留まってくださ  
いますように、  
迎える聖なる日々に、  
また、いつまでも永遠に。

### ◆讚美 312 「紅海を渡り」

### ◆退堂